

学科 学年	C 1	科目 分類	基礎生物化学	講義 必修	後期 1単位	学習教育 目標 2	担当	蓮実 文彦 HASUMI Fumihiko
概要	生物化学は物質工学科の基礎となる学問の一つであり、生物を取り扱う職種（医薬品、食品など）を希望する学生にとっては、必須の科目である。その生物化学を学ぶための基礎知識（生物内での物質の移動と生体を構成する臓器、器官の役割、植物の生理）を講義する。本教科では、生体を構成する分子の化学式、構造式は一応取り扱うが、名称と役割を覚えることに専念する。							
科目目標 (到達目標)	環境と動物の反応、環境と植物の反応を総合的に理解することを最終的な目的とする。講義は、生体の恒常性維持の仕組みを体液、神経、ホルモンの働きを中心に解説する。植物では、光合成と環境適応機構を解説し理解を深めることをめざす。							
教科書 器材等	新編生物（東京書籍） 参考書：ダイナミックワイド図説生物（東京書籍）							
評価の基準と 方法	定期試験 90%、課題（小テスト）と授業への取り組み姿勢（ノートで評価）を合わせ 10%として評価する。60点以上を合格とする。							
関連科目	生物化学1、生物化学2							
授業計画								
	参観	(授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)						
第1回	x	内部環境とその恒常性（血液、肺循環と体循環）						
第2回		内部環境とその恒常性（生体防御 免疫）						
第3回		内部環境とその恒常性（血液凝固、体液成分の調節、腎臓の構造と機能）						
第4回		内部環境とその恒常性（肝臓の働き）						
第5回		自律神経系による調節						
第6回		神経系の構造および機能（軸索での伝達、シナプスでの伝達）						
第7回		ホルモンによる調節						
第8回		定期試験						
第9回		自律神経とホルモンによる調節						
第10回		刺激の受容（目、耳）						
第11回		効果器、反射						
第12回		植物の生活と環境（光合成）						
第13回		植物の生活と環境（光合成、植物体内の水の移動）						
第14回		植物の反応と調節						
第15回		後期末試験						
オフィス アワー	昼休み、木曜日と金曜日の放課後に対応できる。							
授業アンケート への対応	授業内容が理解できない、授業進行が整理されていない、黒板の文字の大きさを指摘された。内容の厳選と進捗速度など授業組立を根本から検討し直す。							
備考								
更新履歴	20100326 新規							

学科 学年	全学科 1年	科目 分類	情報処理基礎[情基] Introduction to Information Technology	講義 必修	通年 2単位	学習教育 目標 1	担当	中道義之 NAKAMICHI Yoshiyuki
概 要	コンピュータの普及により情報社会となった現在では、コンピュータを使った世界でも実社会と同様にルールやマナーが求められる時代になってきている。特に、最近ではコンピュータやネットワークを利用した際に、ルールやマナーの欠如が原因となり、トラブルに巻き込まれたり、逆に知らず知らずのうちにトラブルを起こしていることがある。これらの現状を踏まえ、本講義では、情報倫理を含むコンピュータ全般の話題について広く講義し、情報社会においてコンピュータを適正に使うための最低限の知識を身につけることを目的とする。							
科目目標 (到達目標)	コンピュータのしくみを理解し、コンピュータ機器やネットワークをルールやマナーを持って利用できる。							
教科書 器材等	インターネット社会を生きるための情報倫理2011（実教出版） 情報セキュリティ読本 三訂版 IT時代の危機管理入門（実教出版）							
評価の基準と 方法	4回の定期試験90%、プレゼンテーション・課題レポート10%により評価する。授業内容に関わる違法行為等があった場合は特別に減点する場合がある。							
関連科目	情報系科目							
授業計画								
	参観	(授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)						
第1回		総合情報センター利用案内						
第2回		電子メールによる情報の受信・発信						
第3回		Webページによる情報の受信・発信						
第4回		情報社会の個人情報と知的財産						
第5回		情報社会における生活						
第6回		復習						
第7回	×	前期中間試験						
第8回		セキュリティを守る技術						
第9回		ワードプロセッサ						
第10回		ワードプロセッサ						
第11回		プレゼンテーション						
第12回		プレゼンテーション						
第13回		プレゼンテーション						
第14回		復習						
第15回	×	前期末試験						
第16回		スプレッドシート						
第17回		スプレッドシート						
第18回		コンピュータの仕組み						
第19回		情報のデジタル表現						
第20回		情報のデジタル表現						
第21回		情報ネットワーク						
第22回		復習						
第23回	×	後期中間試験						
第24回		コンピュータを利用した問題解決(1)						
第25回		コンピュータを利用した問題解決(2)						
第26回		コンピュータを利用した問題解決(3)						
第27回		コンピュータを利用した問題解決(4)						
第28回		コンピュータを利用した問題解決(5)						
第29回		コンピュータを利用した問題解決(6)						
第30回		復習						
第31回	×	後期末試験						
第32回		総括						
オフィス アワー	昼休み・放課後（できる限りアポイントメントをとってください）							
授業アンケート への対応								
備 考								
更新履歴	20110328 新規							

学科 学年	C 1	科目 分類	生物学 002000	講義 必修	前期 1 単位	学習教育 目標 2	担当	蓮実 文彦 HASUMI Fumihiko
概 要	細胞のつくり、性質、細胞分裂などの細胞から個体について詳細に学ぶ。生殖に関しては植物、動物について発生とともに理解するようにする。遺伝子に関しては、遺伝の法則と遺伝子の本体について学習する。							
科目目標 (到達目標)	細胞のつくり、細胞分裂、遺伝子の本体など以後の生物系の授業の基礎となる知識を微生物、動物、植物のそれぞれの細胞で理解する。							
教科書 器材等	新編生物 (東京書籍) 参考書: ダイナミックワイド図説生物 (東京書籍)							
評価の基準と 方法	定期試験 90%、課題(小テスト)と授業への取り組み姿勢(ノートで評価)を合わせ 10%として評価する。60点以上を合格とする。							
関連科目	微生物学、微生物学実験、生物化学1、生物化学2							
授業計画								
	参観	(授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)						
第1回	×	ガイダンス、細胞のはたらきと構造						
第2回		細胞のはたらきと構造						
第3回		細胞分裂						
第4回		細胞分裂						
第5回		生殖						
第6回		生殖						
第7回		動物の生殖と発生						
第8回		定期試験						
第9回		発生のしくみ						
第10回		遺伝の法則						
第11回		遺伝の法則						
第12回		遺伝子と染色体						
第13回		性と遺伝						
第14回		遺伝子の本体						
第15回		前期末試験						
第16回								
第17回								
第18回								
第19回								
第20回								
第21回								
第22回								
第23回								
第24回								
第25回								
第26回								
第27回								
第28回								
第29回								
第30回		×						
オフィス アワー	昼休み、木曜日と金曜日の放課後に対応できる。							
授業アンケート への対応	授業内容の理解、授業進行速度、黒板の文字の大きさに注意して授業を進める。							
備 考								
更新履歴	20110326 新規							

学 科 学 年	C 1	科目 分類	物質工学入門[物入] Introduction of chem. and biochem.	実験・ 実習 必修	通年 2履修 単位	学習教育 目標 2	担当 後藤孝信・勝又勝利 GOTO Takanobu・ KATSUMATA Masatoshi
概 要	物質工学とは、物質の組成、構造、変化について基礎的理解を示した上で、有用な物質を見い出して利用したり、新規に作り出す学問であるが、その根底には”ものづくり”に共通して必要とされる素養、つまり、創造力、忍耐力、そして調査解決能力を要する。本講義を通じて、“ものづくり”を理解し、そのために必要な素養を身に付ける。						
科目目標 (到達目標)	与えられたテーマについて、要点を理解すると同時に、生じた問題解決に向けて調査と試行錯誤を繰り返し、内容を向上させることができる。						
教科書 器材等	画用紙、新聞紙、はさみ、小刀、コンパス、竹片、紙コップ、アルミ箔などの各テーマに必要な機材						
評価の基準と 方法	授業時間に作成した”もの”と、その作成に関するレポートの完成度を評価の対象とする。						
関連科目	特になし						
<b>授業計画</b>							
	日	(授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)					
第1回	4/20	本科目の説明, 学科の先生の研究紹介(2名: 芳野先生, 後藤)					
第2回	4/27	学科の先生の研究紹介(3名: 蓮実先生, 竹口先生, 古川先生)					
第3回	5/11	学科の先生の研究紹介(3名: 渡辺先生, 押川先生, 稲津先生)					
第4回	5/18	学科の先生の研究紹介(2名: 大川先生, 藁科先生), 今後の授業の説明					
第5回	5/25	研究室訪問1(高専の授業体系と中間試験に向けて)					
第6回	6/1	紙コップロケットの製作(1回目)					
第7回	6/8	紙コップロケットの製作(2回目)					
第8回	6/15	研究室訪問2(中間試験の反省と講義・実験・実習に対する取り組み方)					
第9回	6/22	紙コップロケットのコンテスト					
第10回	6/29	レポートの書き方指導とレポート作成					
第11回	7/6	沼津工学科のイメージキャラクター, キャッチコピー, ロゴ作成					
第12回	7/13	沼津工学科のイメージキャラクター, キャッチコピー, ロゴ作成					
第13回	7/20	研究室訪問3(前期末試験に向けて)					
第14回	9/28	完成品の発表会と評価					
第15回	10/5	勝又先生による竹細工					
第16回	10/12	勝又先生による竹細工					
第17回	10/19	勝又先生による竹細工					
第18回	10/26	勝又先生による竹細工					
第19回	11/2	勝又先生による竹細工					
第20回	11/9	勝又先生による竹細工					
第21回	11/16	勝又先生による竹細工					
第22回	11/30	勝又先生による竹細工					
第23回	12/7	勝又先生による竹細工					
第24回	12/14	勝又先生による竹細工					
第25回	12/21	勝又先生による竹細工					
第26回	1/11	勝又先生による竹細工					
第27回	1/18	勝又先生による竹細工					
第28回	1/25	勝又先生による竹細工					
第29回	2/1	勝又先生による竹細工					
第30回	2/15	授業アンケート					
オフィス アワー	平日の早朝(7:30 8:30)と、講義や会議の時間を除く夕方(17:15まで)に対応できる。						
授業アンケート への対応	話し方に注意し、黒板への板書を丁寧に書き、成績の評価を明確にする。						
備 考	作業の日は5-8限を使用することがあるので、午後は予定を入れないこと。						
更新履歴	20110329						